

TOP MESSAGE

社会の皆様から信頼される グッドカンパニーへ

当社は、1929年（昭和4年）に創業して以来、塗料メーカーとして社会の要請に応える製品づくりを追求してまいりました。起業の礎となったさび止め塗料「ズボイド」は、秀逸な防錆効果が広く市場から支持され、橋梁やプラントなど、当時の社会インフラの長寿命化に貢献してまいりました。

さらに、90年近い創業の歴史の中で、総合塗料メーカーとして新しい塗料技術や施工法の開発、環境に優しい技術開発に取り組み、重防食塗料をはじめ多くの塗料製品を開発・上市し続け、日本の社会の発展に貢献し、総合塗料メーカーへと成長を果たしてきました。また、近年では海外においても、自動車部品を中心に当社製品の需要が拡大しており、製品を通じた社会貢献はグローバルにまで広がっています。

今後、当社が取り組むべきことは、創業以来、培ってきた豊富な技術と経験を基盤として、独創性の高い製品・情報・サービスの提供を通じて、環境問題に取り組む企業を目指すことです。

平成29年度から当社は新たに第3次中期経営計画をスタートさせました。この中で、経営理念である「新しい価値の創造を通じて地球環境や資源を護り、広く社会の繁栄と豊かな暮らしの実現に貢献できる企業を目指します。」のもと、経営方針とその具体的実行策を策定しました。今後、計画を着実に実行することで社会の種々の課題を的確に認識し、解決してまいります。これによって、単に事業規模の拡大を追求するビッグカンパニーを目指すのではなく、社会の皆様から信頼されるグッドカンパニーとなるべく事業を展開してまいります。

社会貢献に向けた新たな価値創造 の枠組みをつくる

国内では2020年に東京オリンピック・パラリンピックの開催を控えており、我が国の様々な産業分野の最先端技術を世界に示す絶好の機会であると考えられます。そのためには技術力のみならず、社会構造も国際標準レベルに変貌する必要があります。このように、変わりゆく社会構造の中で持続的・継続的な成長力を有する企業であるためには、変化を見据えて社会に貢献できる新たな価値創造の枠組みが欠かせないと考えています。

迫り来る変化の中で、デジタルテクノロジーの発展およびシェアリングエコノミーの到来によって、消費者の意識も変化し、自動車や建築・住宅の各産業に大きな変革が訪れるものと予想されます。このことは塗料をはじめとする素材についても例外ではなく、塗装を必要としない素材が登場するかもしれません。

仮にそうした状況が生じたとしても、当社は広義のコーティング技術をもって、新しい素材を保護し、彩り、または加飾をすることで、新しい価値を付与し、豊かな暮らしの実現に貢献していく所存です。これは、当社の社会的責任であり、経営理念の追求そのものであります。

具体的な取り組みとして、小牧事業所で建設を予定している

「新素材センター」を挙げるすることができます。ここではさまざまな成形品に対して、素材解析や最適コーティングシステム、デザイン、効率的コーティングラインなどをトータルに提供していくための研究開発を行うことを目指しています。

新設の時代からメンテナンスの 時代への転換

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を境に、社会インフラや住環境インフラは新設の時代からメンテナンスの時代へ突入していくものと予想しており、新設は急減するかもしれません。

こうした状況に対して、今から対応策を講じる必要性を感じています。社会インフラや住環境インフラのメンテナンスを、施主やメンテナンス業者の皆様とうながす情報の提供、物件ごとにメンテナンス材料や手法を提案できる仕組みの構築、需要を囲い込むマーケティングモデルの構築などを急がねばなりません。

当社では、メンテナンス需要の獲得を確実にすることを目的に、那須事業所に「防食センター」の建設を予定しています。ここでは、防食分野の塗装対象物を維持、管理する上で必要となる製品や技術・情報・サービスをトータルに提供するための研究開発に主眼を置いています。具体的には、塗膜および素材の劣化予測、省力化・自動化・ロボット施工など、新時代の工法開発を行います。

この「防食センター」で生み出した技術を利用して、たとえば、塗膜や素材の劣化状況を予測した上で、部分補修もしくは大規模メンテナンスを判断する仕組みを構築してまいります。これによって、ライフサイクルコストを考慮した、最適なメンテナンス仕様や効率的な施工方法を提案するなど、お客様のニーズにきめ細かく応えていきます。

技能者や職人の不足を先端技術で カバーする

国内では少子高齢化を背景にした技能者や職人の不足もまた深刻な問題であります。いうまでもなく、数多くの現場での経験を積み上げてきたベテラン職人の技は一朝一夕には身につけません。

今日、ICT（情報通信技術）の進歩によって、職人の技やノウハウをコンピュータに学習させ、マニュアル化することが可能になりつつあります。しかし、収集したデータを因数分解して因子を組み立てていかななくてはならないため膨大な情報が必要です。また、感覚的なものはデータベース化しにくく、マニュアル化は不可能に近いと考えられています。

たとえば、経時変化による10年後の塗膜の劣化具合に関する予測手法を確立するとすると、1年ごとの塗膜の変化を10年間にわたって検査し、それをデータベース化した後に、人間の感触や感覚によって補正する必要があります。現在、当社では鋼構造物の点検、塗膜や鋼材の劣化予測、さらにはメンテナンス時期の設定に向けてのデータづくりに着手しています。こうし

独創性の高い製品・情報・サービスの提供を通じて、環境問題に取り組む企業を目指します。

た取り組みを通じて、人手不足という社会課題に真摯に応えていきます。

独自開発の技術で地球環境の維持や保全に貢献

塗料メーカーにとって、環境対策は最重要課題の一つであります。中でも、従来の溶剤形塗料に多く含まれているVOC(揮発性有機化合物)の削減が急務です。最も有効な手段は塗料の水性化であることから、当社は水性化が特に難しいとされている重防食塗料に関して、業界に先駆けて研究に取り組んでまいりました。そして、溶剤形塗料と同等の防食性能・塗装作業性を可能にした「DNT 水性重防食システム」の開発に成功しています。同システムは、金属部に直接触れる防食下地となるジンクリッチペイントから上塗塗料まで、すべて水性塗料で構成された塗装システムで、現在規格化が進行中のため、今後の地球環境の維持や保全に大きく貢献できると確信しています。

一方、都市における統一された景観や美しい街並みづくりへの社会の関心が高まる中、CSR(企業の社会的責任)の一環として、当社の色彩設計担当部署では、景観材料としての塗料の持つ色彩機能や効果を活かし、環境に調和した優しい色彩環境を創り、快適な暮らしを実現する活動にも取り組んでいます。

さらには、塗料・塗装業界の環境への取り組みに関する最新情報を発信する場として、「DNT 環境塾 環境と塗料についてのセミナー」を、平成15年から毎年全国各地で開催しています。同セミナーは、最新の塗料・塗装の環境対応技術動向を踏まえた多様な情報発信により、官公庁や建築設計事務所、塗装業界などから多数のご参加をいただき、毎回高い評価を得ています。

現代社会の課題を真摯に受けとめていく

当社は創業以来培ってきた技術並びに経営理念に基づき、「国内塗料事業の高付加価値化」「海外塗料事業の積極拡大」、「新たな収益源事業の育成・強化」に取り組んでいます。そして、DNT ブランドを国内外に浸透させ、多方面で成果を重ね、さらなる成長と発展のための事業活動を推進し、企業として社会のさまざまなステークホルダーの皆様の期待に応える事業展開を図る所存です。

現代社会が抱えるさまざまな課題の一つひとつ真摯に受けとめることが、新しい製品の開発と市場への提案、時代の動きと連動した新技術の研究とその加速、有用なサービスの提供に結びつくこととなります。同時にそれらは、企業として果たすべき責務であり、社会貢献の実践そのものであります。また、環境および社会、ガバナンスのいずれの面においても、社会の一員という自覚のもと、これからも責務を確実に果たすとともに、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献する活動においても推進してまいります。

当社は、企業の社会的責任を果たし、地域社会への貢献に努めてまいりますので、変わらぬご指導を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長

里 隆 幸